

2016年1月21日

受益者の皆さまへ

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長 伊井哲朗

【特別レポート】年初からの市場動向と運用状況について

1. 年初来からの株式相場について

○現在の水準はどのあたりなのか？

本日(2016年1月21日)の日経平均株価は昨日に続いて下落し16,017円で引けました。この水準は、昨年夏の所謂「中国ショック」時の16,930円を下回り、一昨年10月31日の日本銀行による量的・質的金融緩和の追加緩和時点の16,413円も割り込みました。チャート的には、黒田バズーカⅡの振り出しまで戻ってきたこととなります。下記に主要国の年初からの騰落率を掲載していますが、先進国の中では日本が最も下落し、震源地の中国並の下落率になっています。

<20日時点での主要国の各指標の年初来からの騰落率 現地通貨ベース>

	1月20日(終値)	騰落率
TOPIX(東証株価指数)	1338.97	-13.5%
日経平均株価	16416.19	-13.8%
東証マザーズ	751.19	-15.3%
NYダウ	15766.74	-9.5%
ドイツDAX	9391.64	-12.6%
英国FT	5673.58	-9.1%
上海総合	2976.69	-15.9%
コモンズ30ファンド(分配金再投資)	21351	-13.3%
ザ・2020ビジョン	11510	-15.5%

2. 市場急落の背景

○この急落の背景は何か

中期的に金融市場を俯瞰しますと

①世界景気の減速がどの程度で止まるのか、新興国経済のボトムはどこか、②米国の利上げは順調に行われるのか、③中国経済のソフトランディングと構造改革は成功するのか、④原油価格の均衡点はどこか、⑤中東やテロなどの地政学的なリスクは拡大しないのか、などがテーマにな

っています。このいずれもが、年初から複雑に重なってしまったことが、今回の急落の背景と考えられています。いずれもが単純な解決が難しく、見極めには時間が必要と思われます。

○注目されるデータ

①日経平均株価の25日移動平均線からのかい離：20日時点で-10.1%となりました。この乖離率はアベノミクス以降では4番目に大きなかい離です。②信用取引の評価損率：15日時点で-15.5%に悪化（松井証券では20日時点で-19.0%）となり、経験則的には陰の局に近いです。③テクニカル指標：サイコロジカルラインが20日時点で16%となり一般的に25%以下は売られ過ぎのレベルです。東証一部騰落レシオ（25日間）も60.40となり、一般的に70前後は底値圏になることが多いと言われます。

上記は、あくまで一般的な見立てですが、参考にはしている市場関係者は多いです。

3. 当社としての対応

当社には「コモンズ30ファンド」、「ザ・2020ビジョン」の2つのファンドがありますが、どちらも一件一件の企業調査に基づく投資をしています。経済や株式、為替などのマクロ的な変化が大きい現在の相場環境ですが、企業の現場はこうした状況とは別に日々、懸命に営まれています。こうした企業への訪問、ミーティングの積み重ねが、お客さまの成果につながることはいつの時代も変わりません。「コモンズ30ファンド」では、外部環境の変化をも吸収する長期的に企業価値を高めていける強い企業を中心に投資をしています。また、「ザ・2020ビジョン」では、株価下落により割安度の増した銘柄にシフトさせるなどポートフォリオを機動的に変化させています。どちらのファンドにも共通するのは“守りながら増やす”とのコンセプトで運用に取り組んでいることです。

しばらくは、株式相場も下値を模索する展開と考えていますが、仮にこれ以上に世界の市場が混乱することがあれば、各国で政策の総動員も想定されます。月末のFOMC（米国の連邦準備制度理事会）や日銀の政策決定会合はその試金石です。

当社の2つのファンドは、これまで同様に、日々、精進を続けて参ります。ご心配をおかけしていると思いますが、引き続きよろしく願いいたします。



コモンズ 30 ファンド、ザ・2020 ビジョンの費用について（共通）

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。
換金時手数料	ありません。
運用管理費（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年 1.242%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により低減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として純資産総額の 0.108%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。

※上記の手数料（費用）等の合計額については、保有期間に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

コモンズ 30 ファンド、ザ・2020 ビジョンのリスクについて

当ファンドは、国内外の株式など値動きのある証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

※リスク要因は、上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ご留意事項

◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
 ◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
 ◆投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

金融商品取引業者
 関東財務局長（金商）第 2061 号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
コモンズ投信株式会社
 〒102-0093
 東京都千代田区平河町 2-4-5
 平河町 K ビル 5 階